

ソフトボール競技関係者における
 競技の普及とルールに関する認識について
 — 一般人に対する競技の理解促進の視点から —

西村 真由子*¹ 久保田 豊司*²

**Research on Understanding
 of the Rules and Promotion of Softball
 — How Do Ordinary People Understand Softball? —**

Mayuko Nishimura*¹ Toyoshi Kubota*²

キーワード

ソフトボール、競技ルール、一般への普及、競技関係者の認識

はじめに

現在、日本においてソフトボール競技の一般的理解は決して十分とは言えず、そのことは競技への興味や関心の不安定さに如実に表れている。2000年代以降の種々のメディアでの取り上げられ方を見ても、男子競技と女子競技の露出の差が歴然であったり、女子競技は国内リーグ戦の取り扱いが少ない一方でオリンピック中継やその関連報道の過熱ぶりを示したりすることがあった(深澤, 2009)。

競技そのものに注目すれば、国際ルールに準拠して国内の各団体・各連盟がルールの整備を重ねてきたこと、また技術の向上と経験の蓄積を目的として国際大会への参加、各国代表チームとの交流を頻繁に図ってきたことは競技関係者には周知の事実である(日本ソフトボール協会, 2018)。

このような背景の中、ソフトボール競技は今後の日本のスポーツ界においてどのような社会的位置づけが望ましいのか、そしてどのような活動を展開していけばよいのであろうか。言い方を換えれば、ソフトボールは全国津々浦々の地域密着型のスポーツとなり老若男女が楽しむことを目指すのか、あるいは国際大会で常に上位の実力を保持するために代表選手育成を中心課題に据えて競技人口の増加・維持と競技レベル向上を目指すのか、ということである。もちろん、これらを同時に目指すことも考えられるし、これら以外のことに取り組んでいくこともあり得る。どのような位置づけで、どのような活動をするにしても競技を盛り上げるためには、より多くの国民の支持を獲得しながら、競技そのものが

*1 にしむら まゆこ：大阪国際大学学務部課外教育センター助教(2018.7.5受理)

*2 くぼた とよし：大阪国際大学人間科学部教授

魅力的になることに注力しなければならない。

いずれにしろ、今後のソフトボール競技の隆盛を望むならば、現在の競技関係者のみでの活動には限界があると考えられる。一般の人々に対して競技への興味・関心を高め、また競技自体を直接あるいはメディアを通して観てもらい、そして新たに競技に関わる者を増やすといったことが課題となろう。

目 的

ソフトボール競技の発展と興隆のためには、現状よりもいっそうの一般社会へのアピールが重要であると考えられる。そのためには、競技関係者以外の人々に対する競技の理解促進、そして新たな競技者・観戦者・支援者がふえるといった競技の普及は不可欠であると言える。

ただ、競技の理解促進と普及について言えば、一般人への競技ルールの周知を抜きには議論できない。おおよその場合、ソフトボール競技関係者以外は野球のルールに関する知識をそのままソフトボールのルールにあてはめようとして試合観戦するものの、その試合展開の早さとあいまって、細部のルールの違いによる選手の動きやそれともなう試合進行に戸惑うことが多々ある。

しかしながら、関係者が指摘するように、一般人にはソフトボールの観戦の前に野球のルールとの差異や特徴的なルールの一部でも把握すれば、格段に競技への興味が増すと言われている。そもそも、ソフトボールのルールは競技を合理的に進行させつつ、競技がもつ特性を活かすことから、「ルールはわかりやすい」ものだという考えがある(丸山、2011)。このことから、競技への理解促進と普及にあたって競技のルールを取り上げ、まず競技関係者がルールに対してどのような認識をもっているかを明らかにする必要がある。

そこで、本研究においては、ソフトボール競技関係者が一般の人々への競技の理解促進と普及についてどのような認識をもつのかを検討するために、一般の人々にとっての競技ルールの難解さ、現行ルールの変更の可否、競技の魅力などを尋ね、その回答の分析を試みる。なお、分析にあたっては、競技関係者の競技の中での立場(役員、選手、指導者、等の分類)、所属チーム登録の種類、競技にかかわっている期間などを考慮して結果を考察することとする。

方 法

競技関係者が一般の人々への競技の理解促進と普及についてどのような認識をもつのかを検討するために、以下のとおり質問紙調査を実施した。

調査協力者：日本ソフトボール協会主催の準指導員養成講習会第3回講義(会場：大阪府堺市立堺高等学校)の講習受講者68名のうち、回答済み質問紙を提出した67名が調査協力者となった。

調査手続き：講義前の時間を利用して、講習会受講者に対して質問紙調査への協力を依頼し、了承を得た受講者に回答を求めた。所要時間は約20分であった。

調査時期：2017年12月9日（土）に調査を実施した。

調査項目：質問紙は、以下の項目で構成されている。

- ① 調査協力者が‘選手’、‘コーチ’、‘監督’などのいずれの立場にあるかといった「競技の中での立場」の選択肢（複数回答可）
- ② 所属するチームが‘男子’、‘女子’、あるいは‘クラブ’、‘実業団’、‘大学’、‘高校’などのいずれの種別への登録かといった「チームの登録種別」の選択肢（複数回答可）
- ③ 競技へのかかわりが‘5年未満’、‘5年以上10年未満’、‘10年以上’などいずれに該当するかといった「競技にかかわっている期間」の選択肢
- ④ 一般の人々に「ソフトボールをもっと知ってもらう必要がある」と思うかについて‘そう思わない’、‘わからない’、‘そう思う’のいずれかに回答する3段階評定
- ⑤ 一般の人々にとって「ソフトボールのルールは難しい」と感じるかについて‘そう思わない’、‘わからない’、‘そう思う’のいずれかに回答する3段階評定
- ⑥ 「ソフトボールの普及のために現行ルールを変えた方がよい」と思うかについて‘そう思わない’、‘わからない’、‘そう思う’のいずれかに回答する3段階評定
- ⑦ 「ソフトボールの魅力を一般の人々に伝えるための説明」についての自由記述
- ⑧ 「ソフトボールの魅力を活かすためのルールの変更・追加」についての自由記述
- ⑨ 「一般の人々と自分が分かりやすく楽しめるルールの変更」についての自由記述

結果と考察

1. 調査協力者の属性について

ソフトボール準指導員養成講習会の受講者に対して質問紙調査を実施した。調査協力者が回答した各項目の回答について度数を算出したところ、次のとおりになった。

まず、「競技における立場」の回答について分類してみると、調査協力者のうち‘選手’が48名、‘コーチ’が12名、‘監督’が14名、‘協会関係’が2名、‘役員’が1名、‘主務・マネージャー’が4名、‘その他’が1名であった（回答に重複があるためパーセンテージ表記せず）。また、立場のうち「選手に専念しているかどうか」を見ると、‘選手のみ’は36名（53.7%）、‘選手と他を兼ねている’は31名（46.3%）であった。

次に、調査協力者の所属チームの「登録種別」を男女別に分類すると、‘男子チーム’が38名（56.7%）、‘女子チーム’が21名（31.3%）、‘不明’が8名（11.9%）であった。また「登録種別」は、‘大学’が最も多く25名、2番目に‘一般男子’が13名、つづいて‘小学生’が10名、‘クラブ’が9名であった（回答に重複があるためパーセンテージ表記せず）。そして、「登録チームの数」について見ると、‘1チームのみ’が50名（74.6%）、‘複数チーム’が15名（22.4%）、‘不明’が2名（3.0%）であった。

3つめに、調査協力者の「競技歴」を分類すると、「五年未満」が21名(31.3%)、「五年以上十年未満」が17名(25.4%)、「十年以上」が29名(43.3%)であった。

2. 調査協力者における一般人に対する競技の普及やルールの難解さの認識について

質問項目のうち『一般の人々に「ソフトボールをもっと知ってもらう必要がある」と思いますか?』、『一般の人々にとって「ソフトボールのルールは難しい」と感じますか?』、『ソフトボール競技の普及のためには現行のルールを変えた方がよいと思いますか?』の3項目は、「そう思わない」、「わからない」、「そう思う」のいずれかに回答する3段階評定の項目であった。各項目の回答の度数は、表1に示すとおりである。

ソフトボール競技を「一般の人々にもっと知ってもらう必要がある」という項目に「そう思う」と回答した調査協力者が7割以上いることから「一般への普及は必要」という認識は競技関係者の多数を占めると考えられる。また調査協力者の半数以上が「一般の人々にとってソフトボールのルールは難しい」という項目に「そう思う」と回答しているものの、調査協力者の3分の2が「ソフトボール競技の普及のためには現行のルールを変えた方がよい」という項目に「そう思わない」と回答している。

これらのことから、競技関係者は一般へのソフトボールの普及は必要だと認識しつつ「一般にはルールが難解」であると感じるものの「普及のためルールを変更」することには抵抗がある、といったジレンマを持っていることが理解できる。

表1 一般人に対する競技の普及やルールに関する項目の度数分布

	そう思わない	わからない	そう思う
一般の人々にソフトボールをもっと知ってもらう必要がある (一般への普及は必要)	9 (13.4%)	9 (13.4%)	49 (73.1%)
一般の人々にとってソフトボールのルールは難しい (一般にはルールが難解)	22 (32.8%)	8 (11.9%)	37 (55.2%)
ソフトボール競技の普及のためには現行のルールを変えた方がよい (普及のためルールを変更)	44 (65.7%)	16 (23.9%)	7 (10.4%)

3. 調査協力者におけるソフトボールの魅力とルールに関する自由記述について

質問項目のうち「ソフトボールの魅力一般の人々に伝えるための説明」、「ソフトボールの魅力を活かすためのルールの変更・追加」、「一般の人々と自分が分かりやすく楽しめるルールの変更」の項目は自由記述で回答を求めた。各項目の記述の有無について、「魅力を一般の人々に伝えるための説明」は「記述あり」が67名(100%)、「記述なし」が0

名（0%）、「魅力を活かすためのルールの変更・追加」は「記述あり」が41名（61.2%）、
「記述なし」が26名（38.8%）、「一般人と自分が分かりやすく楽しめるルール変更」は「記
述あり」が29名（43.3%）、
「記述なし」が38名（56.7%）であった。

4. 調査協力者の登録種別と一般人に対する競技の普及やルールの難解さの認識

登録種別によって一般人に対する競技の普及やルールの難解さの認識の程度に差がみ
られるかを検討するために次のとおり分析を試みた。

質問項目のうち『一般の人々に「ソフトボールをもっと知ってもらう必要がある」と思
いますか?』、『一般の人々にとって「ソフトボールのルールは難しい」と感じますか?』、
『ソフトボール競技の普及のためには現行のルールを変えた方がよいと思えますか?』の
項目の回答について、「そう思わない」を「1」、「わからない」を「2」、「そう思う」を
「3」として数値化し、各項目の調査協力者の平均値が「登録種別」の「男子チーム」、
「女子チーム」により統計的な差がみられるかを明らかにするために分析したところ、表
2のとおりになった。

この結果から、男子チーム登録の関係者よりも女子チーム登録の関係者の方が「一般に
はルールが難解」という認識は強いことが分かる。女子における競技初心者への指導、あ
るいはその初心者の家族などが試合観戦するなかでルールの教示や伝達に困難さを感じて
いるのではないかと考えられる。

表2 登録種別の男子チームと女子チームにおける一般人に対する競技の普及やルールに関する項目
の平均値についてのt検定の結果

	平均値		t 値	有意水準
	男子チーム	女子チーム		
一般の人々にソフトボールをも っと知ってもらう必要がある (一般への普及は必要)	2.55	2.67	0.55	n.s.
一般の人々にとってソフトボール のルールは難しい (一般にはルールが難解)	1.97	2.67	3.24	p<.01
ソフトボール競技の普及のため には現行のルールを変えた方がよい (普及のためルールを変更)	1.47	1.38	0.48	n.s.

また、『一般の人々に「ソフトボールをもっと知ってもらう必要がある」と思
いますか?』、『一般の人々にとって「ソフトボールのルールは難しい」と感じますか?』、『ソフ
トボール競技の普及のためには現行のルールを変えた方がよいと思えますか?』の3項目
の調査協力者の回答の平均値が「登録種別」の「1チームのみ」、「複数チーム」により統

計的な差がみられるかを明らかにするために分析したところ、表3のとおりになった。

この結果から、1チーム登録の関係者よりも複数チーム登録の関係者の方が「一般への普及は必要」という認識は強いことが分かる。これは、複数チームで活動していることが競技への一般の関心や興味が十分でないことを知る機会が多いことなどが理由として考えられる。

表3 1チーム登録と複数チーム登録における一般人に対する競技の普及やルールに関する項目の平均値についてのt検定の結果

	平均値		t 値	有意水準
	1 チーム登録	複数チーム登録		
一般の人々にソフトボールをもっと知ってもらふ必要がある (一般への普及は必要)	2.50	2.87	2.54	$p < .05$
一般の人々にとってソフトボールのルールは難しい (一般にはルールが難解)	2.22	2.20	0.07	<i>n.s.</i>
ソフトボール競技の普及のためには現行のルールを変えた方がよい (普及のためルールを変更)	1.36	1.73	1.88	<i>n.s.</i>

5. 調査協力者における一般人に対する競技の普及やルールの難解さの項目の関連

一般人に対する競技の普及やルールの難解さの認識に関する項目間に関連性がみられるかを検討するために次のとおり分析を試みた。

質問項目のうち『一般の人々に「ソフトボールをもっと知ってもらふ必要がある」と思えますか?』、『一般の人々にとって「ソフトボールのルールは難しい」と感じますか?』、『ソフトボール競技の普及のためには現行のルールを変えた方がよいと思えますか?』の項目の回答を数値化した値について、統計的に関連がみられるかを明らかにするために相関分析をしたところ、表4のとおりになった。

この結果から、「一般にはルールが難解」の項目と「普及のためルールを変更」の項目との間に有意な正の弱い相関関係が示された。つまり、一般の人にはルールが難しいと認識しているほど、一般への普及のためにはルールを変更するという認識があるということである。ただし、この両者の認識の関係は必ずしも強いわけではなく、弱い関係を示しているにすぎない。

以上の相関分析で示された弱い関係の結果と、表1の結果から読み取れる「一般へソフトボールを普及させたいが、ルールが難しい、でも普及のためにルールを変えたくない」といった複雑な思いとあわせると、競技の普及のためだけにルールを変更することは関係者の理解を得にくいことが推察できる。

表4 一般人に対する競技の普及やルールに関する項目の相関分析の結果

	一般への普及は必要	一般にはルールが難解	普及のためルールを変更	
一般への普及は必要	—	.001	.003	
一般にはルールが難解		—	.322	**
普及のためルールを変更			—	

** $p < .01$

おわりに

ソフトボール競技関係者の多くは一般の人々に対してソフトボール競技が普及することを願っている。競技への興味や関心が高まり、支援者、観戦者、そして新たに競技に関わる者が増えることを拒む関係者はいないと言ってよい。

では、ソフトボールの普及のためには何をすればよいのか。この単純な問いに、明快な回答がないことは今回の分析で明らかになった。競技ルールに注目すれば、関係者は一般にはルールの理解が容易ではないと感じている。しかしながら、普及を目的にルールを変えることは受け入れられないという反応があった。

おそらく、一般の人に分かりやすいルールを適用することが、ソフトボールの特長を削いでしまい、かえって競技の魅力を低めてしまうと危惧している関係者が少なくないのではないか。その点を考慮すれば、ルール変更については、ソフトボールの魅力を維持しつつ関係者自身が納得したうえで一般の人に分かりやすい形になることが望まれると言える。

これまでの競技の発展の経緯をふまえて、関係者があらためてソフトボールの魅力の本質を理解し、その魅力を活かすルールの変更があって、ソフトボールの普及が達成されると思われる。今後、ソフトボールの魅力に関する検討が期待される。

参考文献

- 深澤弘樹『北京オリンピック報道における「物語」』、山梨学院大学経営情報学論集 第15号 155-170、2009年。
丸山克俊『わかりやすいソフトボールのルール』、成美堂出版、2011年。
日本ソフトボール協会 機関誌『JSAソフトボール』、日本体育社 403号 2-9、12-15、2018年。
日本ソフトボール協会 機関誌『JSAソフトボール』、日本体育社 404号 2-11、2018年。
日本ソフトボール協会 機関誌『JSAソフトボール』、日本体育社 405号 2-5、2018年。

